

Meet the Musicians

楽団員紹介

ロックからクラシックまで音楽の時代を遡るベーシスト

北村 一平

Ippei Kitamura

[コントラバス・フォアシュペーラー]2006年8月入団

趣味：野球(東響野球部所属)、草花の手入れ、イヤフォン



©N.Ikegami

ベースと出会って

母に言われるがまま嫌々続けていたピアノ。中学生のときに同級生から「ピアノが弾けるなら、キーボードをやってくれないか」と誘われてロックバンドを組みましたが、ベースのメンバーが脱退し、エレキベースに転向。高校では軽音楽部に入ろうと思ったものの、部活のクオリティに満足できず(笑)、先輩から「吹奏楽部でもエレキベースが弾けるよ!」と勧誘を受けて入部したら、自動的にコントラバスがついてきた——。それがコントラバスとの出会いです(笑)。



中学生の頃、地元の催し物にて。ボーカルが全く練習して来ずギタリストと喧嘩をし、何故か私が歌も歌うことに。

ですので、私の音楽との出会いはロックから。クラシック音楽とはかけ離れているように感じられるかもしれませんが、ロックもポップスも、基本的に西洋音楽の理論を踏襲しているので、私としては「違うジャンルに足を踏み入れた」というよりは「音楽の源流をさかのぼった」という感覚が強かったです。

当時は今よりも、「芸術」に対しての恐れや憧れが一層強かった世の中のように感じていて、そのこ

ろは「難しいことが正義」とばかりに、曲のバックボーンを図書館で調べたり、たくさんのCDを借りたりする行為そのもの自体に惹かれていました。そのうち、音楽の楽しさや美しさ、喜びなど表現の深みを感じられるようになり「これがクラシックのもつ奥深さなのかな」と思えるようになりましたね。今は、音楽そのものというよりも、私たちが音楽を通して感じている気持ちをより多くの人と共有できればと思っています。

イヤフォンを通して音楽にアプローチ

昔イヤフォンが壊れてしまったときに「ちょっと奮発して良いものを買ってみよう」と出向いた家電屋で運命の出会いをしてしまっ以来、イヤフォンにはまっています。実は先日、世界限定1000台・日本限定100台のイヤフォンを運良く手に入れることができました。イヤフォンは様々な価格帯のものがあるので、音質を聴き比べたり、コスパの良いものを見繕ったりしながら、その日の気分や天候、聴く音楽のジャンルによってさまざまな種類を楽しんでいます。

ステージ上では音の「表現の仕方」を研究しますが、イヤフォン選びは音の様々な「聴き方」を開発する作業。イヤフォンのレビューをするにも、思ったことを言葉でどのように表現するのかなど、普段考えていないようなことを考えるきっかけにもなります。音に対して全く違う角度からアプローチをすることはとても楽しいですね。



ケーブルを交換したり、イヤピースを色々試したり。理想の音は「キラキラ・シュワシュワ」です。

インタビュー：事務局